



学校法人
鎌倉女子大学

「最近、私が特に誇りに思うこと！」

今年のお正月のテレビのニュース番組のことです。財界人の賀詞交換会の風景が流れていました。恒例の、「今年の景気は、晴れですか、曇りですか、雨ですか？」という記者の質問に、経団連の次期会長と目されているキヤノンの御手洗社長がこう答えていたのが、印象的でした。^{*}「いや、晴れです。ここ何年かの日本経済の動向は、人間の心理に左右されてきたところが多分にありました。皆が晴れと思えば、晴れるのです」。

これとちょうど逆の方向のことを、東京大学の竹内整一教授が松本講堂で講演をしてくれた時に、「予言の自己成就」という言い回しで学生諸君に強調していました。「人類は、ダメになる。ハルマゲドンがやってくる。そう皆が言い、そう皆が思えば、皆がそう振る舞いはじめる。そうすれば、結果として人類は、愚かしくもダメになっていくのだ」。無論、「そうなのはいけないよ」と、竹内さんは、いうわけです。

どちらの態度を採るべきか、今更説明するまでもないでしょう。

最近、大学関係者は、寄ると話せば、いろいろさまざまな語り口で日本の大学はダメになっていくのではないかと声高に叫びます。そうした叫び声の多くは、真面目な危機意識に発するものではあるのですが、「危機だ危機だ」と叫べば、問題が解決するわけでもありません。「大学ユニヴァーサル化で最近の学生の質が落ちた」といったようなものも殊に耳にするその類^{たぐい}ですが、しかし思うに、こうしたことも、私たちの心理的な思い込みによっているところが相当大きいのではないのでしょうか。

先日、ある大学関係者の会議の席上、議長を務めたある大学長の方が、ひと通りの議事が終わった後に、嘆息気味にこういわれました。「毎年毎年学生の質が落ちてきているように感じられるのですが、先生方の大学では如何でしょうか。皆さんにひと当たりお聞きしてみたいと思うのですが」。よせばいいのに、その方が「まず左隣の先生から一人ひとり」と発言を促しました。

「先生のおっしゃる通りです。毎年毎年指導が手取り足取り、大変さが増していくようで、本当に質が落ちてきているようです」。出席者は、まるで挨拶代わりでもあるかのように、言い回しはともあれ20人前後の出席者が、皆一様にそういう応えを繰り返したものでした。内心、私は、「イヤダナ」と思いました。「今時の若い者は」などという言葉遣いは、ギリシアの昔から再三再四聞かされ続けてきたことです。もし、それが本当なら、人類は、3000年来下降の一途を辿り、遙か昔にそれこそハルマゲドンであったことでしょう。毎年毎年指導が大変になるなどと思うのは、要はこちらが歳をとってきたというだけのことなのかも知れませんが。

議長の右隣に座っていたとうとう最後の私のところに辿り着きました。「鎌倉女子大学さんでは、如何ですか?」、そう促されて、私は、こういいました。「はあ、私のところでは、お蔭様で毎年毎年いい学生たちが来てくれまして大変喜んでおります」。時間も過ぎていきましたので、私のこの発言を聞いて、他の出席者の間に何となくシラットした雰囲気が漂い、そのまま会議は終わってしまいました。

このことを家に帰って話したところ、息子から苦笑気味に^{たしな}嗜められました。「親父、その場の空気を読むことも必要なんだぞ!」と。私は、息子にこう答えました。これは、私の口癖でもあるそうなのですが、「だって、ホントなんだもん」。

ちょうど、この文章を書いているところに、学生センター長の降籙先生が、入学式からオリエンテーションの一連の動きが一応終了したということで、報告にきて下さいました。それによりますと、新入生諸君は、福田教務部長の講話「学生生活と授業」も一言の私語もなく整然と熱心に聞き、皆大変意欲的な姿勢であったとのことでした。降籙先生は、「煙草を吸う者も一人もいず、ウチの学生は皆真面目です!」と胸を張りました。無論、学生センター長は、本学の教育の伝統とそれを受け継ぐクラスアドバイザーを初めとする先生方の率先垂範、指導の賜物と付け加えられることも忘れませんでした。

今年もいい学生諸君の参加を得て、以上が「最近、私が特に誇りに思うこと!」です。

※御手洗氏は、5月24日付けで既に日本経済団体連合会の会長に就任されています。

[>前のページへ戻る](#)